

支那の風景

A photograph showing a large crowd gathered around a bonfire at night. The fire is bright orange and red, with smoke rising. In the background, people are standing and watching. The scene is set outdoors, likely in a park or public square.

(日)にそれぞれの地区で、太田川の河川を願つて1月8日(日)、1月15日(日)

通田

八木学区社会福祉協議会広報部
社会福祉協議会事務局
中田 (0873-4236)
山田 (0873-2934)

編集後記

八木学区社会福祉協議会広報部
社会福祉協議会事務局
中田 (082-3784-2326)
山田 (082-3784-2394)

A photograph showing a group of approximately ten children sitting on the floor in a classroom. They are all looking down at a large book or poster spread out on the floor in front of them. The children are dressed in casual clothing, and the room has wooden floors and walls.

鳴渡場とんど祭り
町内会長 上順和

かなどんどん祭りとなりました。たくさんの方々の小さな子供たちを迎えて、にぎやかに年次行事として人との触れ合いの大好きな年になりました。今年は例年になく、行なわれた祭りを開催することになりました。

いよいよ火祭りが開催されました。今年は、女性による火の粉撒きが行われました。消防団員による火消しパフォーマンスも見どころでした。また、地域の皆さんが手作りの盆踊りで街を盛り上げました。夜遅くまで続く音楽と笑顔が、この町の暖かさを感じさせてくれます。

この風物詩や町に民理に
い維持を伝えたものです。

八木学校やさしさ発見教室の体験記
八木学区青少年健全育成連絡協議会
八木学区青少年健全育成連絡協議会長 松尾 和則
くる森重様の講話をされられて、車椅子生徒に挨拶に口グラムは統引きます

ふれあい駅伝
ふれあいの会 茶之原 修

「ふれあい駅伝」は、幼稚園、小学校、中学校、高校、一般と幅広い年齢層が八木のまち事務所に19回目の大会を開催することです。2年間の中止を経て、この2年で駆け抜けた、「ふれあい駅伝」は、多くの困難な事も多々あります。それこそチームの力で乗り越えることで、これまで多くの方に参加していただき、この感動を味わっていただきたいためと思っています。また、参加する選手はもちろん、安芸市立学校低学年の親子部門から、幼稚園や地域一體として、これからも大切に育つてもらいます。

The image is a collage of three photographs. The left photograph shows a child from behind, looking at a large, multi-colored mobile robot (resembling a tank or truck) on a polished wooden floor. The middle photograph is a close-up of the robot's front section, showing its wheels and mechanical parts. The right photograph shows a group of children and adults gathered around the robot, with one child in an orange shirt reaching out towards it.

平成5年2月8日午後、八木小学校体普通に接して欲しい「自由な体でおーとを児童たちへしつかりど波み取つたトヨで5年生2クラス51名を対象に発見教室」が2時限枠で開講されました。目的は車椅子ユザーの方々から講話を聞かせました。講話が終ります。越害たれ2体よわよわの怖さ、坂道きり障れか。のい段僅かムの技、ロード自走や介助方の実現を願うござる等、難差しを超える

駅伝は、幼稚園、小学校、中学校、一般と幅広い年齢層が八木のまち事前準備、当日の体験やアラシテントなど、困難な事も多々あります。それこそチームの力で乗り越えることで、強い絆と友情が生まれます。これまで多くの方に参加していただき、この感動を味わっていただけたらうれしいと思っています。また、参加する選手はもちろん、安全のためのボランティアの方々も運営を担つていて思っています。地域一体感でスムーズな運営をめざして、地域一帯で継続できました。地元の親子部門から、5人チームで長く続いている大会なので、幼稚園や学年一般部門、さらには親子部門まで、多くの人が力を合わせてファニッシュします。大会の前にも入って活躍する子もたくさんいます。また、走るのが好きになってしまった陸上競技部では、出場してくる子もいます。大会の前から、子どもたちが生み出されます。